

# 平成 29(2017)年度 事業計画書

(平成 29(2017)年 4 月 1 日～平成 30(2018)年 3 月 31 日)

## I. 平成 29(2017)年度事業方針

当財団は、昭和 49(1974)年の設立以来、生活・自然環境、社会福祉、教育・文化等に関する研究や事業に対して様々な助成を行ってきた。また、その実施に際しては、「先見性」、「市民性」、「国際性」の三つの条件を拠り所としてきた。

そこで平成 29(2017)年度も、「社会が直面する困難な課題に向き合うための考え方や方法論を探究する」研究助成、「地域の課題解決に向けた仕事づくりとその担い手を育成する」国内助成、「高齢化、少子化、移民、アートなど、アジア各国の多領域における共通課題について互いに学び、解決策を見出す」国際助成の 3 プログラムを中心として、新たな社会課題の芽を発見し、その解決を目指す取組みに対する支援を行う。



### 1. 重点実施項目

- (1) メインとなる 3 助成プログラム(研究・国際・国内)については、予算規模を前年と同じく各 1 億円とすることにより当財団らしい助成規模を維持する。但し、2011 年の発災以来 6 年の間継続してきた東日本大震災被災地の復興支援の取組みについては、イニシアティブプログラムの枠組みの中において、これまでの振り返りと評価を行うこととする。
- (2) また、イニシアティブプログラムの枠組みの中では、前年と同じく NPO の基盤強化などの非営利セクターの発展に資するプロジェクトの支援や、平成 27(2015)年度に開催した「アジア非営利セクター国際会議」のフォローアップ助成も引き続き実施する。
- (3) 社会コミュニケーションプログラムの枠組みの中では、国内助成プログラムの成果発信(政策提言)を目的として行う「つたえる助成」を新たに実施する。
- (4) 2024 年度の設立 50 周年記念事業に備え、今後、収益の上振れ等による黒字分を主な財源として 5 千万円を限度に「特定費用準備資金」を積み立てていく。(収支相償の原則に対応)

### 2. 事業内容

	プログラム・項目	実施内容
(1) 助成 プ ロ グ ラ ム	研究助成プログラム	①引き続き、基本テーマを「社会の新たな価値の創出をめざして」とし、学際的・領域横断的な研究へ助成
	国際助成プログラム	①基本テーマ「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」のもと、2016 年度のプログラムを踏襲し実施。
	国内助成プログラム	①「仕事づくり」と「担い手の育成」に取り組むプロジェクトを募集
	イニシアティブプログラム	①NPO の基盤強化など、非営利セクターの発展に資するプロジェクトなどを積極的に支援 ②「アジア非営利セクター国際会議」のフォローアップ助成を実施 ③東日本大震災復興支援評価を非公募プログラムとして実施
	社会コミュニケーションプログラム	①過去の助成プロジェクトの中から成果の高かったものを選び、その成果を広く社会に発信 ②国内助成プログラムの過去のプロジェクトを対象にした、政策提言活動に対して行う「つたえる助成(仮)」を新たに実施
	(2) その他	①2024 年に迎える設立 50 周年を記念した事業に備えるため、本年度より「特定費用準備資金」として積立てを行う。

<平成 29(2017)年度助成計画>

プログラム	予算(千円)	募集期間	助成期間
研究助成プログラム	100,000 共同 80,000 個人 20,000	2017年5月1日 ～9月8日	2018年5月1日から 1年間もしくは2年間
国際助成プログラム	100,000	2017年3月24日 ～6月20日	2017年11月1日から 1年間もしくは2年間
国内助成プログラム	100,000	2017年9月1日 ～10月31日	2018年4月1日から 最長1年間(しらべる助成) 2年間(そだてる助成)
イニシアティブプログラム	45,000 35,000 震災 10,000	随 時	採択プロジェクト毎に決 定
社会コミュニケーションプログラム	20,000 15,000 つたえる 5,000	(過去の助成対象 から選考)	採択プロジェクト毎に決 定
計	365,000		

《参考》

<平成 28(2016)年度助成実績>

プログラム	応募件数	助成件数	助成金(千円)	予算(千円)
研究助成プログラム	878	40	100,000	100,000
(共同)	429	17	74,200	80,000
(個人)	449	23	25,800	20,000
国際助成プログラム	211	18	100,000	100,000
国内助成プログラム	549	33	109,890	130,000
(一般枠)	439	26	85,200	100,000
(東日本大震災対応)	10	7	24,690	30,000
イニシアティブプログラム	—	6	28,800	40,000
社会コミュニケーションプログラム	—	2	9,690	10,000
計			348,380	380,000

## II. 平成 29(2017)年度事業内容

### 1. 研究助成プログラム

#### (1) 2016 年度の実施内容

- ・改定後 3 年目となる助成テーマ「社会の新たな価値の創出をめざして」を継続し、未来に向けて斬新なビジョンを提案する、意欲的な共同研究および個人研究のプロジェクトを募った。前年度に引き続き、国内外を対象として、国籍、居住地、所属などを問わず、広く公募を行った。
- ・公募の結果、国内外から多数の応募が集まり、応募総数は 878 件(前年度比約 3 割増)となった。世界各国における近年の外部研究費獲得要請の高まりを反映し、特に海外からの応募が増加し、97 の国・地域から 598 件(前年度比約 5 割増)の応募が集まった。
- ・また、前年度に引き続き、助成対象者による研究会・報告会を開催し、助成の成果の発信及び助成対象者に対する動機付けの場とした。東京と京都の会場で合わせて約 100 名の参加者があり、本プログラムの趣旨について理解を広げるよい機会となった。
- ・優れた成果を上げた助成プロジェクトに対し、助成期間終了後、社会コミュニケーションプログラムの助成枠を通じ、セミナーの開催や書籍・冊子の発行による成果発信の支援を行った。

#### (2) 2017 年度の考え方

- ・前年度の基本テーマを継続する。世界を俯瞰し、未来を見通す広い視野から、これからの社会が対応を迫られる困難な課題に向き合うための基本的な考え方や方法論を探究する、学際的・横断的な研究プロジェクトを支援する。
- ・引き続き、国内外から多様な応募を募るが、本プログラムの趣旨との合致度の低い応募を減少させるため、公募方法の見直しを実施する。
- ・本年度も助成対象者による研究会・報告会を開催し、プログラムの趣旨や成果を積極的に発信する。
- ・助成プロジェクトの成果発信を重点的に支援する。社会的・国際的に発信の意義が高いと考えられる研究成果を重視し、社会コミュニケーションプログラムの助成枠などを通じ、その出版・普及を支援する。

#### (3) プログラム内容

- |        |  |
|--------|--|
| ①基本テーマ | 『社会の新たな価値の創出をめざして』<br>地球規模の課題や世代を超える課題など、これからの社会が対応を迫られる困難な課題に向き合うための基本的な考え方や方法論を探究する、意欲的な研究プロジェクトを支援する。 |
| ②助成枠   | (A) 共同研究助成<br>(B) 個人研究助成   |
| ③募集方法  | 財団ウェブサイトでの掲載、関係機関への案内等   |
| ④募集時期  | 2017 年 5 月 1 日～9 月 8 日   |
| ⑤選考方法  | 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定   |

- ⑥助成金 総額 1 億円  
 共同研究助成：総額約 8,000 万円  
 [上限額 400 万円/件(2 年間の場合は 800 万円)]  
 個人研究助成：総額約 2,000 万円  
 [上限額 100 万円/件(2 年間の場合は 200 万円)]
- ⑦助成期間 2018 年 5 月 1 日から 1 年間もしくは 2 年間

(4) 研究会・報告会

目 的	・助成の趣旨・成果の発信 ・助成対象者ほか、参加者間の情報交換・交流
参加者	助成対象者、応募希望者、選考委員等外部有識者
時 期	2017 年 4 月、5 月
開催地	東京、福岡
予 算	約 220 万円/2 回 (会場費・旅費・懇親会費等)

2. 国際助成プログラム

(1) 2016 年度の実施内容

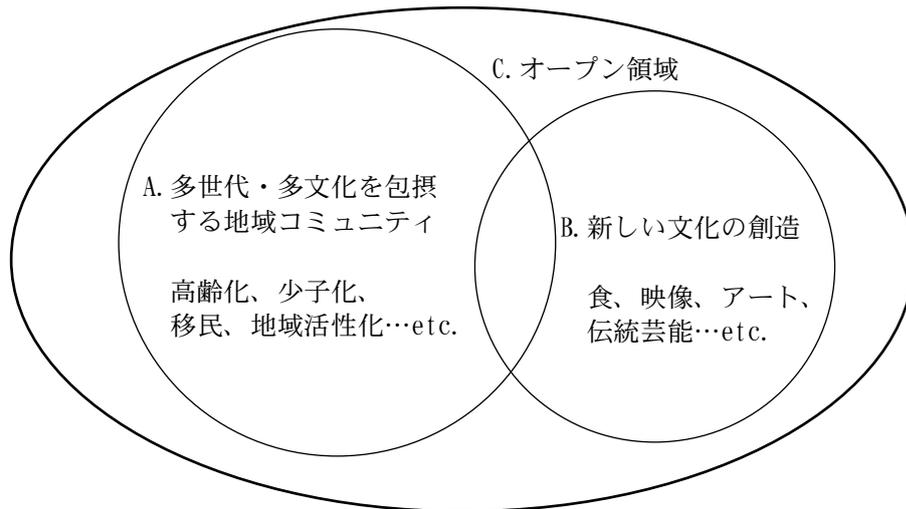
- ・2016 年度の助成プログラムは、基本テーマとしては 2015 年度の「アジアの共通課題と相互交流 —学びあいから共感へ—」を踏襲しつつ、特に「2 国以上の地域実践者による国を越えた現場訪問・相互交流の実施」に重点を置き、多国間の「学びあい」とそれにもとづく成果発信を重視した。対象地域としては、日本を含む東アジアと東南アジア合わせて 18 の国・地域とした。
- ・ただし、具体的な助成領域としては前年度までのプログラム成果、有識者ヒアリングなどをもとに、(A)多世代・多文化を包摂する地域コミュニティ(前年度までの助成領域「高齢化社会」「多文化社会」のテーマはこの一部)、(B)新しい文化の創造、(C)オープン領域の 3 領域へ拡大した。結果、アジア各国から前年度の 3 倍超となる 211 件の応募を得、18 件を採択した。
- ・公募プログラムと並行し、過去 3 年間の重点助成領域であった「高齢化社会」及び「多文化社会」の 2 テーマについて、助成プロジェクト参加者を中心にそれぞれ神戸と韓国・ソウルにおいて国際シンポジウム(含ワークショップ、フィールド視察)を実施した。
- ・また、2016 年 1 月に開催した「アジア非営利セクター国際会議(ICANS)」で構築したネットワークの維持拡大および今後のアジアを中心とした助成財団、業界支援団体、研究機関等の域内連携協力を見据え、香港(5 月・9 月)、デリー(11 月)、メキシコシティ(2017 年 2 月)の国際会議へ参加し、日本の民間財団としてのプレゼンス強化に努めた。

(2) 2017 年度の方考え方

- ・助成プログラムとしては、2016 年度に改訂を行った基本テーマと趣旨を継続し、日本を含む東アジアと東南アジアの共通課題に対する「2 国以上の地域実践者による国を越えた現場交流・課題解決」への助成を行う。また助成領域も前年度と同じく(A)多世代・多文化を包

撰する地域コミュニティ(「高齢化社会」「多文化社会」のテーマはこの一部)、(B)新しい文化の創造、(C)オープン領域の3領域を継続し、応募者への本テーマの浸透とプログラムとしての深化を図る。

- ・また、各国の活動を通じて互いに学びあい、自国の解決策を見出していくという本プログラムの狙いを実現するために、報告会・シンポジウム等のイベントを通じて人的・知的な交流を図り、かつ財団としての知見を発信していく。
- ・アジアにおける非営利セクターの発展とネットワーク強化に資すべく、引き続き国内外の国際会議等へ積極的に関わっていく。



### (3) プログラム内容

- ①基本テーマ 『アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―』
- ②サブテーマ (A)多世代・多文化を包摂する地域コミュニティ  
(B)新しい文化の創造  
(C)オープン領域
- ③対象国 東アジア・東南アジアの国・地域  

東アジア：	中国、香港、マカオ、台湾、韓国、モンゴル、日本
東南アジア：	ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム
- ④対象プロジェクト 対象国の2国以上における、各サブテーマについてのレビュー及び提言や作品の制作
- ⑤募集方法 財団ウェブサイトでの掲載、関係機関への案内等
- ⑥募集時期 2017年3月24日～6月20日
- ⑦選考方法 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定
- ⑧助成金 総額1億円
- ⑨助成期間 2017年11月1日から1年間もしくは2年間

#### (4) シンポジウム・ワークショップ

##### ① 国際シンポジウム／ワークショップ

内 容	2016・2017 年度の助成対象プロジェクトを中心として、2018 年度以降の公募プログラムのテーマにつながる視点の獲得、および国際助成プログラムの周知を目的とした助成対象者・研究会参加者・有識者等による国際シンポジウムを開催する
時 期	2017 年 12 月～2018 年 2 月頃
場 所	未 定
参加者	国際助成プログラム助成対象者、研究者、実践者、政策担当者、民間財団等(60～100 名程度)
予 算	約 400 万円 (会場費・旅費・懇親会費等)

### 3. 国内助成プログラム

#### (1) 2016 年度の実施内容

- ・2015 年度に引き続き「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた仕事づくりを通じて―」をテーマとして公募を実施した。
- ・「課題解決に向けてより効果的な事業を実施するためには、十分な課題分析を行ったうえで、事業立案することが重要である」との考えから、これまでの「活動助成」(「そだてる助成」に名称変更)に加えて、活動を実施するための事前調査、企画立案の実施に対して助成を行う枠組み「しらべる助成」を新たに設定した。
- ・NPOの組織基盤強化を図ることを目的としてトヨタ自動車のマネジメントノウハウを学ぶ講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」を実施した。

#### (2) 2017 年度の方考え方

- ・引き続き「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた仕事づくりを通じて―」をテーマとして公募を実施する。
- ・NPO等の非営利セクターは、公共サービスの担い手としての役割と同時に社会の仕組みそのものの変革することをめざす「政策提言」機能も重要であるという考えに基づき、新たに「つたえる助成(仮)」(政策提言、アドボカシー助成)を設定し、社会コミュニケーションプログラムにて助成を行う。
- ・昨年に引き続き、NPOの組織基盤強化を図ることを目的としたトヨタNPOカレッジ「カイケツ」を開催する他、助成対象者の事業の成果をより高めるために、マネジメントや評価について学ぶ講座・ワークショップを開催する。

#### (3) 助成プログラム内容

##### ① 基本テーマ

『未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた仕事づくりを通じて―』

若い世代とともに地域課題解決につながる仕事づくりに取り組む事業やそうした仕事の担い手となる人材を育てる事業を支援する。仕事

が地域で育つことにより、それぞれの地域に適した持続可能で人々が幸せを実感できるコミュニティが築かれることを期待。

- ②助成領域 「しらべる助成」「そだてる助成」  
 （「つたえる助成(仮)」は社会コミュニケーションプログラムにて対応）
- ③募集方法 財団ウェブサイトでの掲載、関係機関への募集要項の送付等による公募
- ④募集時期 2017年9月1日～10月31日（予定）
- ⑤選考方法 外部有識者によって構成される選考委員会にて選考を行い、理事会にて助成決定
- ⑥助成金 総額1億円  
 「しらべる助成」 上限額 100万円/件  
 「そだてる助成」 上限設定なし（過去の助成実績は600万円/件程度）
- ⑦助成期間 「しらべる助成」 2018年4月1日から最長1年間  
 「そだてる助成」 2018年4月1日から2年間

#### (4) 自主事業

##### ①2015年度助成対象者中間報告ワークショップ

内 容	助成事業の中間報告（2015年度助成対象者）
時 期	2017年4月中旬
場 所	東京
参加者	助成対象者（2015年度・2016年度助成対象者）
予 算	約100万円（会場費・講師料・参加者旅費等）

##### ②助成対象候補者コンサルテーション

内 容	助成対象候補者コンサルテーションワークショップ
時 期	2018年2月
場 所	トヨタ財団会議室
参加者	2017年度助成対象候補者
予 算	約80万円（講師料・参加者旅費等）

##### ③トヨタNPOカレッジ「カイケツ」

内 容	助成対象者他NPO等へのトヨタ自動車株の問題解決手法を提供
時 期	2017年5月中旬～12月中旬
場 所	名古屋
参加者	公募（助成対象者他）
予 算	約1,000万円（会場費・講師料・参加者旅費等）

#### ④シンポジウム

内 容	過去の助成プロジェクトを中心にプログラムの成果を広く発信する
時 期	2018年2月～3月
場 所	未 定
参加者	一 般
予 算	約 250 万円（会場費・講師料・旅費・委託費等）

## 4. イニシアティブプログラム

### <一般枠>

#### (1) 2016 年度の実施内容

- ・ NPOの基盤強化につながる人材育成(1件・500万円)や、コミュニティ財団の育成・強化のための基盤整備事業(1件・1,000万円)、NPOの事業評価実践者育成プロジェクト(1件・600万円)、日中韓の相互理解と融和の実現のための東アジア市民社会フォーラム開催(1件・80万円)、国際文化会館のアーカイブ整備事業(1件・300万円)への支援を行うなど、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトへの助成も行った。
- ・ また 2015 年度に開催した「アジア非営利セクター国際会議」のフォローアップとして、同会議に参加した団体による、アジア各国の非営利セクターの現況(制度・データ・課題等)に関する共同研究プロジェクト(1件・800万円)への助成も行った。

#### (2) 2017 年度の考え方

- ・ NPOの基盤強化など、非営利セクターの発展に資するプロジェクトに対する助成を行うとともに、他組織との共同助成、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトなど、本プログラムの本来の目的である、将来の新しいプログラムの開発に資するためのプロジェクトを積極的に発掘していくこととしたい。

#### (3) プログラム内容

- ①対象プロジェクト
- \* NPOの基盤強化など非営利セクターの発展に資するプロジェクト
  - \* 他組織との共同助成、民間財団として支援の意義の大きいプロジェクト
  - \* 財団独自の調査活動や研究会と連携するプロジェクト
  - \* 公募プログラムにおけるモニタリングなどを通して、より大きな成果に結びつくと財団として判断したプロジェクト
  - \* 「アジア非営利セクター国際会議」に参加した団体による、アジア各国の非営利セクターの現況(制度・データ・課題等)に関する国際共同研究 など
- ②選考方法
- 財団内事業企画会議で協議を行い、イニシアティブプログラム等選考委員会で審議の上、理事会にて助成決定
- ③助成金
- 総額 3,500 万円

## <東日本大震災特定課題>

### (1) 2016 年度の実施内容

- ・公募の国内助成プログラムの特定課題として 2012 年度より助成を開始し、2016 年度は復興(災害)公営住宅入居者の一層の自立を促すため、基本テーマを「入居者の手による、復興(災害)公営住宅におけるコミュニティづくり」として公募を実施した。
- ・復興(災害)公営住宅入居者の「支援される被災者」の立場から、「コミュニティの構成員」としての一層の自立をお手伝いする活動に対して助成を行い、具体的には共用スペースの上手な利用方法などについて話し合い、知恵を出し、共に汗をかくことにより入居者の力を引き出すプロジェクトなどへの支援を行った。

### (2) 2017 年度の方考え方

- ・2016 年度の募集に対する応募件数が 10 件と少数に留まったことや、自治体による復興(災害)公営住宅におけるコミュニティ形成への補助金などが創設されはじめていることなどから、3 年間続けてきたコミュニティ形成支援プログラムは一定の役割を終えたと判断。
- ・2017 年度は、このコミュニティ形成支援プログラムの振り返り・評価を行うことで、将来の災害に備えるとともに、発災から丸 6 年を経た被災地における現在の課題を抽出することを目的とした調査事業を非公募の助成により実施する。

### (3) プログラム内容

- ①対象プロジェクト \*3 年間実施した被災地のコミュニティ再形成支援プログラムの振り返り・評価を行うプロジェクト  
\*将来の災害に備えるとともに被災地における現在の課題を抽出することを目的とした調査プロジェクト など
- ②選考方法 <一般枠>と同じ
- ③助成金 総額 1,000 万円

## 5. 社会コミュニケーションプログラム

### (1) 2016 年度の実施内容

- ・研究助成プログラムにて支援したプロジェクトの普及・実践活動として、「苦しむ仲間を互いに支え合える子供の育成」の意義を理解するためのカリキュラム作成(1 件・400 万円)、国内助成プログラムにて支援したプロジェクトの提言活動として、障がい者の就労・生活支援のモデルケース構築・提言(1 件・569 万円)に対し助成を行った。

### (2) 2017 年度の方考え方

- ・本年度も引き続き、全プログラムを対象に、助成プロジェクトの成果や手法などをインパクトのある形で社会に発信・普及させることを目的とする。具体的には、モニタリング(中間・最終段階)などを通して候補となるプロジェクトを選定し、助成対象者と P O が連携して効果的な社会への発信を図る。
- ・書籍の出版のみならず、映像媒体(映画・ビデオ・DVD・漫画など)、デジタル媒体(ホーム

ページ・メールマガジンなど)やシンポジウム、ワークショップ、メディアの活用など多様な方法を通じての社会発信を対象とする。

- ・また、NPO等の非営利セクターは、公共サービスの担い手としての役割と同時に社会の仕組みそのものの変革することをめざす「政策提言」機能も重要であるという考えに基づき、国内助成プログラムの過去の助成プロジェクトを対象にした、政策提言活動への「つたえる助成(仮)」を本プログラムで行う。

### (3) プログラム内容

- ①対象プログラム 全プログラム
- ②対象プロジェクト 過去の助成プロジェクトの中から対象者と財団とが協議の上、候補を選定
- ③選考方法 財団内事業企画会議で協議を行い、イニシアティブプログラム等選考委員会で審議の上、理事会にて助成決定
- ④助成金 総額 2,000 万円  
うち「つたえる助成(仮)」：総額 500 万円（上限額 300 万円／件）

## 6. その他の活動

### (1) 広報活動

- ・当財団の事業、並びに助成活動の成果をより効果的に周知するため、刊行物・WEBを利用した広報活動のより一層の充実を図る。事業とリンクした組織的・計画的な広報活動のため、広報誌の発行やウェブサイトへの掲載、メディアへの情報発信などをタイムリーに行うことに重点を置く。

<広報誌『JOINT』>

- ・当財団の活動と考え方を、広く発信するため広報誌『JOINT』を年3回発行する。

【2016年度の発行実績】

	刊行日	特集タイトル	発行部数
第21号	2016年4月15日	トヨタNPOカレッジ「カイケツ」始動へ	5,000
第22号	2016年10月24日	共にくらすアジア	
第23号	2017年1月27日	包みこむ社会	